

CONTENTS	
市社協	「設立70周年記念 大阪市社会福祉大会」を開催
城東区	つながりつづける地域をめざして —地域福祉フォーラムを開催—
西区	「知ろっ！話そっ！」とともに暮らそう！ —子育て支援からはじめよう、 多文化共生の地域づくり—
施設と地域のつながりをもつ一度	
令和3年度(第75回)赤い羽根共同募金運動	
市社協職員が街頭募金活動	
善意銀行 —みなさんの善意を大切に—	
8	7
6	5
4	3

大阪の 社会福祉

2021.11

798

The social welfare
in OSAKA



社会福祉 大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>



10月15日、大阪国際交流センターにて開催。
受賞者の方へ直接表彰状・感謝状を手渡すことができました

市社協

「設立70周年記念 大阪市社会福祉大会」を開催

市社協は10月15日、大阪国際交流センターで「設立70周年記念 大阪市社会福祉大会」を開催しました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症のため止むを得ず大会は中止しましたが、

設立70周年記念となる今年度は、感染対策を講じ、例年の大会より規模を縮小して開催、大会関係者・表彰状感謝状受賞者など約320人が集いました。
(2面へつづく)

HB

最近忘れ物が多くなった▼定年後、1か所で落ち着いてする仕事でなく、ボランティアも含めて、その日ごとに行く場所が違ったり、する内容も、持っていくものも違うという日々。不安定な毎日に多少混乱している自分がい

る▼話は変わるが、最近ひきこもる若者についての本を読んだ。社会の産業構造が変化し、日本では生産をするという誰の目にも見える仕事はなくなり、付加価値の付く効率のいい、言葉を変えれば、分かりにくい仕事求められるている。だから、決められた学業しかしてこなかった若者の、就職という場面で挫折する例が増えているというのだ▼働き方も多様だし、終身雇用でなく、いつでもやめる自由やいつからでも働ける可能性もある。しかし、そうした変化とそれに伴う様々な働き方を家族が理解してくれるとは限らない▼複雑な就職事情に家族の無理解が重なったときに、ひきこもりという現象が発生するというその本の話に納得してしまった。自由という言葉には無限の可能性があるが、闇の深い挫折もある▼定年後、自由になった私の忘れ物の理由を家族は理解してくれているだろうか。(石)

「設立70周年記念 大阪市社会福祉大会」を開催

市社協

70年にわたり 地域福祉を推進

大会式典では、宮川晴美会長が開会あいさつをおこないました。「地域社会においては、住民の福祉課題、生活課題が、複雑化、多様化、深刻化し、従来の福祉の枠組みを超えた、横断

的な取組みが求められている」とし、また「近年、全国各地で大規模な自然災害が発生しており、今なお、新型コロナウイルス感染症により私たちの生活は多大な影響を受けている。今まで70年にわたり、地域福祉を推進する中核的な団体としての役割を果たしてきたが、今後

も、各区社協をはじめ、関係団体との連携を一層強化し、『一人ひとりの人権が尊重され、誰もが自分らしく安心して暮らすことができ、やさしさともぐもりのある福祉によるまちづくり』の実現に向け、取組みを進めていく」と述べました。

続いて、多年にわたり地域福祉の推進に尽力され、その功績が顕著な社協役員やボランティア、長年にわたり功績のあった社会福祉施設・団体従事者などに対し、市社協会長および市長から表彰状・感謝状が、延べ77団体・552人に贈呈されました。

地域共生社会の実現に向けて

最後に、倉光慎二副会長が「大会宣言（案）」を読みあげ、（以下、要約）「急速な少子高齢化や地域における人のつな

がりの希薄化などに対応し、地域での見守り、相談支援体制をさらに充実させていくことが求められている。新型コロナウイルス感染症により、地域の福祉活動も停滞を余儀なくされているが、コロナ禍においてもつながりを絶やさない方法を模索しながら取り組んでいる。加えて、雇用環境の悪化等により、大幅に増加している生活困窮者

の自立に向けた支援が急務になっている。このようななか、設立70周年を契機として、地域住民、関係団体、施設、行政、企業などが一丸となり、地域共生社会の実現に向け、今日的な福祉課題を解決し、地域福祉をより一層推進すること、会場一致で確認し、大会宣言を採択しました。

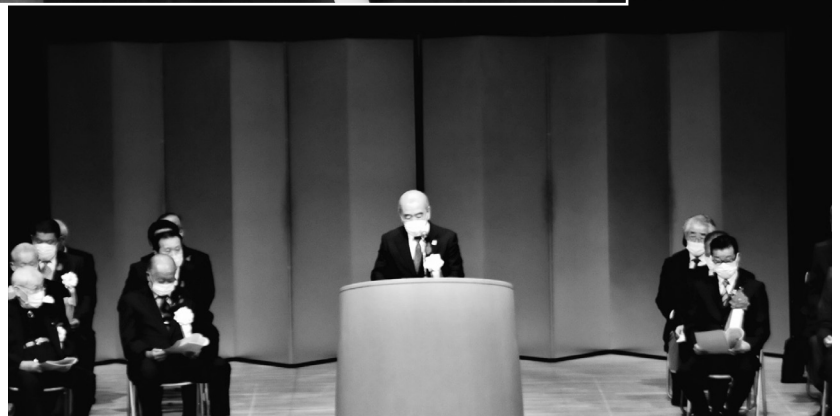
▶倉光副会長による、大会宣言（案）の朗読



宮川市社協会長から代表の方々へ、表彰状が贈呈されました



◀70周年を記念して作成した冊子を配付し、お披露目



動画や冊子で 社協をPR

また、式典に先立って、設立70周年を記念して新たに作成した市・区社会福祉協議会の活動紹介動画と冊子を、それぞれ初

お披露目しました。

活動紹介動画は、市・区社協を広く知ってもらい、親しみやすく身近な存在、頼りがいのある存在に感じてもらえるよう、社協活動をわかりやすく伝えています。「第2期 大阪市地域福



社会福祉法人

大阪市社会福祉協議会

▲活動紹介動画には若手職員が中心となって出演。社協の魅力、やりがいをPRしています

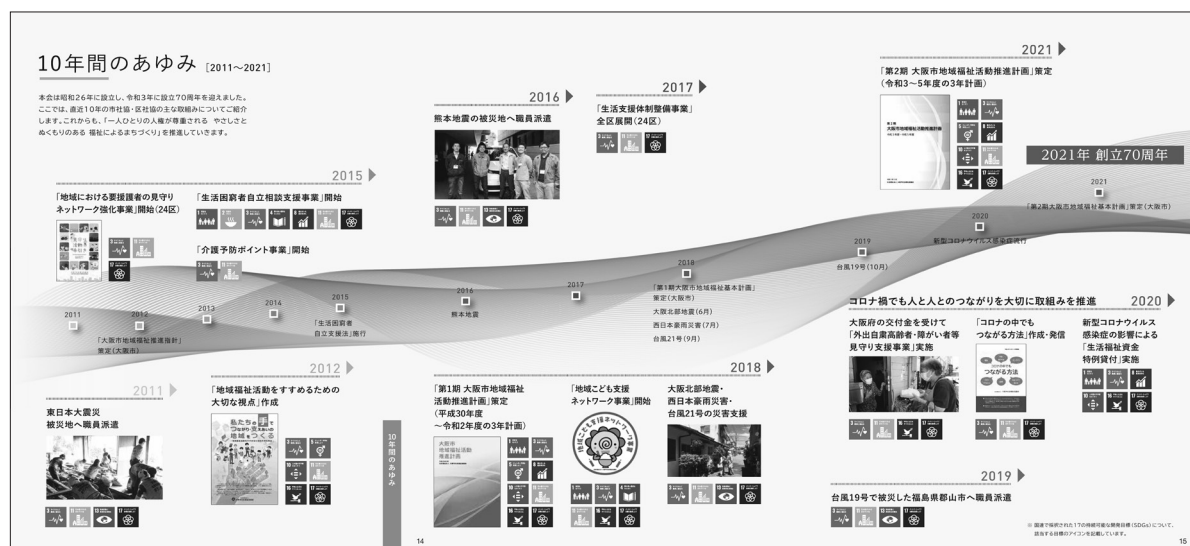


市・区社協の活動紹介冊子

社活動推進計画」の3つの基本目標に基づき「ささえる」「ひろげる」「つなげる」という3つの視点を通じて、実際の活動の様子を紹介しています。大会で上映された約3分のダイジェスト版のほか、約10分のフルバージョン、また、社協への就職をめざす学生に向けた就職案内版も作成しました。活動紹介冊子でも、「ささえる」「ひろげる」「つなげる」という3つの視点をキーワードに、市・区社協の事業を紹介しています。また、各事業における相談数や区ボランティア・市民活動センターのボランティア登録数など、社協の活動実績を紹介した「数字で見る市社協・区社協」や、70周年に合わせて平成23（2011）年から令和3（2021）年の「10年間のあゆみ」を掲載しています。

今後、さまざまな場面を通じて、この動画・冊子を活用しながら、市・区社協について周知に努めていきます。これらの設立70周年記念に関する取組み、また、これまでのあゆみは、市社協HP内の「設立70周年記念特設ページ」でご覧いただけます。

市社協HP内「設立70周年記念特設ページ」はこちら



活動紹介冊子の「10年間のあゆみ」ページ。SDGs（持続可能な開発目標）に該当する項目も記載しています

つながりつづける地域をめざして

地域福祉フォーラムを開催

城東区社協は9月28日、コロナ禍でもこれまで築いてきたつながりを絶やさず、これから地域で暮らす人々がつながり、支え合って生きていくために、今何ができるかを考える機会として、地域福祉フォーラム「つながりつづける地域をめざして」を開催しました。

区社協や地域の会館など5か所のサテライト会場とオンライン視聴をあわせて、区地域福祉活動者やボランティア活動者など約80人が参加しました。

やる気になって
元気になる

第一部の基調講演では、大阪教育大学・特任教授の新崎国広先生が冒頭に、「コロナ禍での地域福祉活動の重要性を学ぶこと」「地域の福祉力（お節介力）を高めることの意義を学ぶこと」そして「実践者の実践を参考に、助け上手・助けられ上手になること」が今日の目的であるとし、やる気になって元気になってもらいたいと温かく語りかけました。そして、「ウィズコロナの時代に、できることをどんな工夫をすればできるの

かを考え、あきらめずにつながりつづける地域福祉活動の方法を一緒に考えましょう」と続けました。

自分の居場所づくりが
誰かの居場所に

第二部は、男のカフェ「火の鳥」（旭区）と「毛馬コーポゆうくらぶ」（都島区）からの事例報告とパネルディスカッションがおこなわれました。

男のカフェ「火の鳥」は、男性の居場所づくりの活動として、スタッフもお客さんも男性中心のカフェの活動を始めて4年目になりますが、コロナ禍で活動がストップ。再開したい思いを胸に、カフェができない状況を逆手にとって、これまでの活動を見つめ直す時間にあて、チラシやブレ開催の案を練るなどし、話し合いを止めませんでした。

旭区社協としても「楽しみにしている地域やボランティアの方の気持ちを大切にしたいし、安全も確保したい。できる限りの感染対策とその道筋を、火の鳥メンバーと何度も話し合いました」と、寄り添い続けた区社

協・生活支援コーディネーターの鎌田真央さんは話します。「火の鳥」の入夏清高さんは、今後はカフェの他にも、こどもたちとの防災イベントやコミュニケーション麻雀の計画もあると明かし、新しく「男のカフェ火の鳥ニュース」を作成し配付を始めるとのこと。「楽しくやらせてもらうのが一番。自分の居場所を作ることが、他人の居場所にもなる」と笑顔を絶やさず話しました。

楽しむことが大切、
楽しいから続く

続いて報告のあった「毛馬コーポゆうくらぶ」は、築40年を超える大規模マンションの入居者の高齢化を背景として、「学び合い助け合う長屋型大規模マンション」をテーマに、年をとっても元気に明るく暮らし、住民同士が助け合える、課題に向けての話し合いができるコミュニティを目指して平成27年から活動しています。「毛馬コーポゆうくらぶ」は世話人を中心に、専門職が関わり、さまざまな活動をおこなっていますが、生活支援



新崎先生のコーディネートで、和やかに話が弾んだパネルディスカッション

コーディネーターの地道な支援と、それまでに構築した信頼関係があったことで、コロナ禍でもいち早く令和2年6月にZOOMを活用して勉強会等の活動を再開しました。世話人代表の前田智希子さんは「楽しむことを大切にしています。もっとお

もしろいことをやろうと考え中です」、同じく世話人の青山ヒフミさんは「他人事ではなく自分事。地域の役に立てることがうれしい」と話しました。

社協として
できることを

2つの事例報告を通じて、新崎先生は「楽しい・おもしろい」が共通点。お互いに自己実現できる「相互実現型自立」の姿がありました」とまとめました。新崎先生、両パネリストに対しては、終了後も数多くの質問が寄せられました。

コロナ禍による地域のつながりの希薄化や地域福祉活動の再開について、何ができるか課題意識を持ち続けていた城東区社協・地域支援担当の松田麻美さんと生活支援コーディネーターの藤本梨沙さんは、今回のフォーラムを「地域のみなさんが続けてこられた活動は、どれもかけがえのないこと。改めてその大切さを見直して、前に進むきっかけになれば」「思うように動けないもどかしさの中でも『こんなこともできるのか』と新たな発見をしていただけるとうれしい」とふりかえりました。

区社協は今後も、地域福祉活動者やボランティア活動者とともに考え話し合い、歩んでいきます。

「知ろうっ！話そうっ！ともに暮らそうっ！」

子育て支援からはじめる、多文化共生の地域づくり

西区社協は、(公財) 大阪国際交流センターと共催で、10月9日に「西区子育て支援者向け多文化共生実践講座／多文化交流会」を開催しました。

西区では、人口約10万人のうち4・5%が外国人で、その中の約6割を20・39才が占め、乳幼児の割合も市内他区に比べ高くなっています。区内の小学校では、外国にルーツを持つ子どもが増えており、西区で子育てをしている外国人が多いことが

わかります。区社協においても、コロナ禍で外国人からの相談が多くあり、生活習慣や文化の違いからさまざまな不安を抱え生活している人の存在を感じていました。

同講座／交流会は、外国人(外国にルーツを持つ子ども)への理解を深め、交流や支援の仕方について考えるきっかけを持つこと、そして、区内の子育て支援者が今後の活動に活かせるよう企画されました。

知り合う、話す、理解し合う

(公財) 大阪国際交流センター・事務局次長の大野美保子さんは講座の中で、多文化交流会のポイントとして、「知ろう！」「話そう！」「ともに暮らそう！」の3つをあげました。知り合い、話し、そして理解し合うことができればと話しました。

交流会には、自身が外国にルーツを持つ子どもとして日本

れる言葉の難しさ、出産にまつわる風習の違い、学校行事での苦労、ハラルフード(イスラム法上で食べることが許されている食材や料理)を見つけることの大変さなどのエピソードに参加者が質問し、理解・交流を深めていました。また、外国人スピーカーから「ママ友をつくるにはどうすればいい？子育てイベントの情報はどうやって手に入れればいい？」といった質問があり、参加者がアドバイスする場面もありました。

一人ひとり その人を見る視点

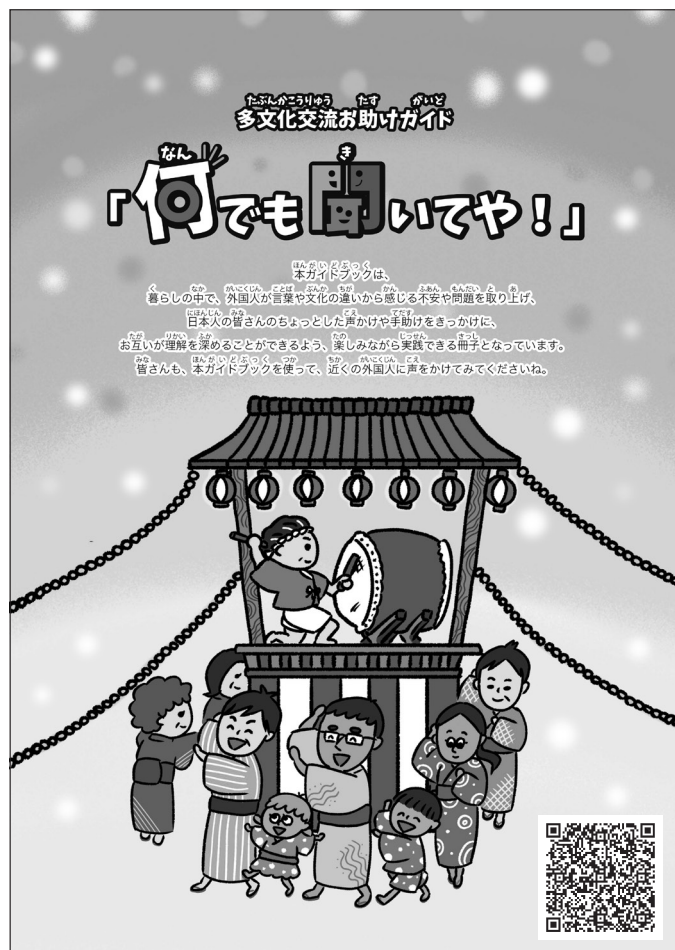
区社協・地域支援担当の青山紗季さんは、「グループディスカッションでは日本の学校や社会では『みんな一緒』を求められ、暮らしていくとおっしゃっていました。多文化共生という言葉のとおり、お互いを認め、その人本人を見る視点が必要だと感じました」。

また、「講座を機に、区内の外国の方の状況や地域の状況を、客観的に分析できたのもよかったことの一つです。講座や交流会はきっかけのひとつでしかないで、これからの活動に活かしたり、区社協として

支援できることを増やしていきたいです」と話しました。区社協では、今後も一人ひとりが個人として尊重される地域づくりに取り組まれます。



直接会って話したことで、より交流が深まりました。



多文化交流お助けガイド「何でも聞いてや！」

で育ち、日本での出産や子育てをした方、外国人との結婚によって外国にルーツを持つ子どもを育てた方など、5人の外国人スピーカーが日本での出産や子育てで苦労したこと、困っていることなどの経験談を話しました。妊婦検診で使わ

施設協

施設と地域のつながりをもう一度

大阪市社会事業施設協議会・区社会福祉施設連絡会

大阪市内には約1,000か所の社会福祉施設があります。各施設では、新型コロナウイルス感染症の影響が続くなか、感染リスクと直面しながらも、こども、高齢者、障がい者、生活困窮者などの暮らしを支える役割を止めることなく継続してきました。

一方、社会福祉施設として、施設利用者以外の住民に向けた公益的な取組みの推進や、地域との交流も大切にしてきました。コロナ禍において厳しい状況が続いています。

そこで、大阪市社会事業施設協議会(事務局：市社協)では、加盟する6つの種別団体、各区社会福祉施設連絡会に向けて、9月の敬老月間に際しての協賛イベントとして、メッセージポスターの掲示などを呼びかけました。昨年度に続き2回目となり、ポスター掲示のほかにも、これまで交流があった地域住民や他の施設と「もう一度つながり直そう」という試みも見られました。

ある保育園では、例年地域の食事サービスなどに招待され、参加していましたが、昨年度からコロナ禍で交流ができない状況が続いていました。そこで地

域の方に「コロナに負けないように」という気持ちを込めて、カレンダーを作ってプレゼント。地域の方々はとても喜び、また、この間交流を持てなかったことをとても残念に感じていたという思いを、保育園としても知ったそうです。



いつまでもおげんきで (たちばな保育園／西成区)



シーサーががんばってつくったよ (めぐみ保育園／大正区)



心温まる手作りカレンダー (桜宮児童センター／都島区)

ほかにも、地元自治会へのプレゼントを園児たちが地域の集会所に届けたり、保育園から毎年交流していた高齢者施設に作品をプレゼントし、お返しの手作りおもちゃやポスターが届いてこどもたちが

う声も寄せられ、施設として近隣の方々に「見える活動」の大切さに気づいた」という施設職員の声や、昨年度のイベント参画を機に、季節ごとの作品を掲示し続けているという施設もありました。



地元の老人会にプレゼント (茨田東こども園／鶴見区)



近隣の高齢者施設(アップリケア)へ、園児たちの思いをお届け(浅香東保育園／住吉区)

10月1日から、全国一斉に、赤い羽根共同募金運動が実施されています。

市社協職員17人が10月1日の夕刻、天王寺区上本町6丁目交差点付近で、街頭募金をおこないました。市社協が実施する多くの事業に共同募金の配分金があてられていることを踏まえ、財源・資金の大切さ、募金者の想いを再認識するため、平成16年からこの活動が続けています。この日は、会社帰りの方や学校帰りの学生、小さな子どもたちなど、たくさんの方々に募

金に協力いただき、22,396円の募金が集まりました。

10月21日には、四天王寺境内西重門付近にて、大阪府共同募金会が主催する街頭募金活動及び広報活動に、職員2人が参加しました。

多くの方に協力していただき、その善意にこそがあたりまいました。みなさまの善意は、大阪府共同募金会を通じて、地域福祉事業や社会福祉施設の整備、社会福祉団体・ボランティア団体等の活動支援、災害復興支援など、



上本町六丁目交差点付近にて

さまざまな福祉事業に活用されます。

共同募金運動は、来年3月31日まで全国各地で取り組まれます。

令和3年度(第74回)赤い羽根共同募金運動 市社協職員が街頭募金活動

仕事を選んだ
きっかけは？

日々の
業務内容は？

やりがい・
大変なところは？

参加者
募集

福祉を学ぶ学生のための 施設職員とのWEB懇談会

福祉を学ぶ、関心のある学生を対象に、社会福祉施設職員の話を聞くWEB懇談会を開催します。コロナ禍でこれまでどおりの体験学習や施設見学などが難しいなか、広く福祉の仕事をイメージしていただくきっかけとなるよう、さまざまな種別の施設での業務内容、やりがい・魅力などをお伝えします。

Zoom上で全体進行し、主にチャットを通じて質問を募りますので、気軽にご参加いただけます。

日時

令和3年
11月20日(土) 午後2時～4時

開催形態

オンライン開催(Zoom)

対象

福祉を学ぶ、または関心のある **大学生・専門学校生・高校生** / 学校教員

問合せ

大阪市社会事業施設協議会事務局
大阪市社会福祉協議会地域福祉課
TEL 06-6765-5606

申込み・企画詳細は「大阪市社会事業施設協議会」ホームページへ
<https://sisetsukyo.osaka-sishakyo.jp/post-training/r3webkondankai>

(申込みは**11月16日(火)**まで。
受付延長の場合はHPでお知らせします)



共催：大阪市社会事業施設協議会（経営委員会）、
大阪市福祉人材養成連絡協議会、大阪市社会福祉協議会

風をよむ

高齢者の就労・社会参加をやりがいや 生きがいへとつなげるために

大阪市立大学大学院生活科学研究科 講師
鵜浦 直子

先日、とあるファストフード店で最高齢のアルバイトスタッフを紹介した記事をネットで見ました。その方は90代で、週に4日ほど勤務し、意欲的にお仕事をされていた。

人生100年時代と言われる、いくつになっても意欲さえあれば、柔軟に多様な働き方で就労や社会参加できる環境の整備が進められている。

また、就労している人は就労していない人に比べて、経済的に心配なく暮らしている割合や生きがいを感じている割合が高いともいわれ、高齢者の就労・社会参加の促進が謳われている。

しかし、経済的に余裕がなく、生活費を稼ぐ必要から就労している実態もうかがえる結果がある。たとえば、内閣府(2020)「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」によると、就労継続を希望する理由として、日本では「収入がほしいから」が51.0%、次いで「働くのは体によいから、老化を防ぐから」

が23.1%、「仕事そのものが面白いから、自分の活力になるから」が15.8%となっている。やりがいや生きがいにつながる「仕事そのものが面白いから、自分の活力になるから」を理由に就労継続を希望した割合は少ないことがわかる。ちなみに、本調査での国際比較の対象となっているアメリカ、ドイツ、スウェーデンでは「仕事そのものが面白いから、自分の活力になるから」を就労継続の希望理由として回答した割合が最も多く、順に32.6%、43.3%、38.2%となっている。

高齢になっても働く背景には、現役時代の雇用環境等、高齢になる以前のその人の置かれた状況、環境が大きく影響し、生活費が必要で働いていることもある。やりがいや生きがいだけでなく、現役時代の雇用環境等の改善も含めて、高齢者の就労・社会参加の促進を考えていくことが求められる。

※今号の「はじめまして!こんにちは」NPO法人のご紹介」は休載します。

大阪市親族後見人等相談会

参加無料 要事前予約

個別相談会を開催します

専門職(弁護士・司法書士・社会福祉士よりいずれか1名)が成年後見制度や、手続き・実際の事務に関する疑問にお答えします

【日 時】 令和3年12月18日(土)
令和4年1月13日(木)
2月5日(土)
3月5日(土)
午後1時30分～4時30分

【会 場】 大阪市社会福祉研修・情報センター

申込み方法

①希望日 ②氏名 ③住所 ④電話番号 ⑤現在の状況(受任中・申立検討中など) ⑥相談したい内容を記載のうえ、FAX・メール・またはハガキにて下記宛先までお申込みください。

※受付は1週間前まで。定員(一日6組)に達し次第締切り

申込み・問合せ先

大阪市成年後見支援センター

〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20
大阪市社会福祉研修・情報センター3階
電話 (06) 4392-8282
FAX (06) 4392-8900
Eメール yousei@shakyo-osaka.jp
http://www.wel-osaka.jp/kouken/index.php



成年後見制度・市民後見人活動

啓発講演会

成年後見制度と市民後見人への期待

参加費 無料

～本人らしい生活を守り、支える～

判断能力が十分でない高齢者・障がい者の意思を尊重し、本人の財産や生活を守る『成年後見制度』について、また、第三者後見人として身近な地域から本人に寄り添った活動を展開している『市民後見人』の活動や役割についてご講演いただきます。

第2部は、中学生の時に視力を失い音楽療法士としても活動中の落語家の桂福点さんにトークと落語でノーマライゼーションについてお話しいたします。

【日時】 令和3年12月4日(土) 午後1時30分～4時
(開場:午後1時)

【場所】 あべのハルカス 25階 会議室
(阿倍野区阿倍野筋1-1-43)

【内容】 第1部(講演) 成年後見制度と市民後見人への期待

～地域で本人らしい生活を支える～

講師: 大阪弁護士会 林堂 佳子 氏
大阪成年後見支援センター前専門相談員
受任調整企画委員

第2部(トーク落語) “であいは心の光”～笑いでノーマライゼーションを～

講師: 落語家 桂 福点 氏

【対象】 市民、地域活動関係者、福祉・医療関係者、市民後見人バンク登録者ほか、どなたでも定員180名

【主催】 ◇大阪市市民後見人連絡協議会
◇大阪市成年後見支援センター (大阪市社会福祉協議会)

※緊急事態宣言が出された場合は中止とし、後日ホームページ上で動画を公開します。

申込み方法

FAX・ハガキ・Eメールに右の事項を記入して、11月22日(月)までにお申し込みください。(当日消印有効)

- ①「成年後見制度講演会参加希望」
- ②名前 ③所属(勤務先)・団体名
- ④連絡先電話番号

※参加証はお送りしませんので、当日直接お越しください。定員を超えた場合のみご連絡します。

市社協 善意銀行

みなさんの善意を大切に

市社協では、みなさまからの善意のご寄附を、施設や団体へ払い出したり、助成金として活用させていただくことで、地域福祉の推進などに役立てています。

7月2日の収受式では、「スマイルチルドレン」に感謝状を手渡しました。(写真)

いただいた寄附は、大阪市児童福祉施設連盟の事業に有効に活用させていただきます。



令和3年4月～9月の預託・払出は次のとおりです。

- <金銭>一般財団法人安原記念福祉財団より90万円▶株式会社阪急オアシスより131万6千円▶御堂21倶楽部より10万円
- <物品>株式会社NTTデータエンジニアリングシステムズよりスマートクッキー台199箱▶キッズプラザ大阪より煎茶ティーバッグ「なにわみどり」124,600個▶ライオンズクラブ国際協会355-B地区3R大阪戎橋いとはんLCより学習ノート1,550冊▶スマイルチルドレンよりてまもり泡フォーム30ml1600個▶水野産業株式会社大阪支店よりPVCグローブ252箱▶株式会社エヌカンパニーより除菌消臭剤「N-CLEAR」2304本、セブンイレブン405箱
- <物品>大阪市児童福祉施設連盟へスマートクッキー199箱、てまもり泡フォーム30ml1600個▶大阪市24区社会福祉協議会へ煎茶ティーバッグ「なにわみどり」124,600個、大阪市社会福祉協議会地域子ども支援ネットワーク事業へ学習ノート1,550冊▶大阪市老人福祉施設連盟へPVCグローブ252箱▶大阪市地域福祉施設協議会へ「N-CLEAR」2,304本、セブンイレブン405箱

善意銀行 預託 払出

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

月1万円の保険 24時間365日の保険 火災・盗難の保険

www.ms-ins.com